

SHIRAKOBATO

# しろこぼと



1990. 11

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 78

日本野鳥の会 埼玉県支部

# 変わりゆく埼玉の鳥相

— 1985年～1990年県内野鳥分布調査概要 —

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

## はじめに

1985年5月から5年間実施した県内野鳥分布調査(表1)は、秩父愛鳥会をはじめとする団体及び本会員諸氏の御協力を得、1990年1月に終了した。調査結果は各調査毎に設定した注目種(表2)を中心として本誌にその都度報告(文献参照)した。

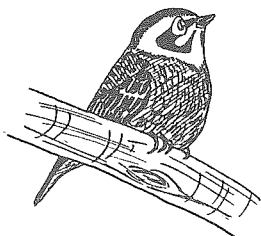
本報告は、紙面の都合などで発表できなかったデータを含め本調査で観察された種の概論としてまとめた。ただし、本報告はあくまでも本アンケート調査の結果であって、これがただちに県産鳥類リストや夏鳥、冬鳥のカテゴリーの変更を意味するものではない。

## 調査方法

県内をJIS-C6304地域メッシュコードによる基準地域メッシュ(日本工業規格 1976)約1km四方の正方形に分ける。調査参加者には、上記のメッシュコードが記入された5万分の1地形図、又は観察地域を明記させる調査はがきを配布し、メッシュコード毎に観察された種を記入するアンケート方式をとった。

## 調査メッシュ数と観察種数

本調査における調査メッシュ数と観察種数(表3)を見ると、結果として調査メッシュ数の増加が必ずしも観察種数の増加にはつなげていない。



(黒田佳子)

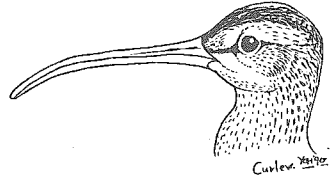


表1 調査概要

|      |                 |             |
|------|-----------------|-------------|
| 調査対象 | 1985年5月～1990年1月 |             |
| 期    | 夏鳥              | 5月10日～7月10日 |
|      | 冬鳥              | 12月1日～1月31日 |
| 調査方式 | はがき、調査票によるアンケート |             |

表2 県内野鳥分布調査の注目種

| 調査期間   | 注目種                  | 文献          |
|--------|----------------------|-------------|
| 1985年夏 | カッコウ、オオヨシキリ          | (研究部 1985)  |
| 1986年冬 | タゲリ、ユリカモメ、<br>ジョウビタキ | (研究部 1986a) |
| 夏      | 都市鳥                  | (研究部 1986b) |
| 1987年冬 | シギ・チドリ類の越冬           | (研究部 1987a) |
| 夏      | コゲラ、アオゲラ、<br>アカゲラ    | (研究部 1987b) |
| 1988年冬 | ヤマガラ                 | (研究部 1988a) |
| 夏      | コヨシキリ                | (研究部 1988b) |
| 1989年冬 | カワウ                  | (研究部 1989a) |
| 夏      | イワツバメ                | (研究部 1989b) |
| 1990年冬 | シラコバト                | (研究部 1990)  |

表3 県内野鳥分布調査の種数と調査メッシュ数

| 調査年  | 冬鳥  |     |         | 夏鳥  |     |         |
|------|-----|-----|---------|-----|-----|---------|
|      | 在来種 | 外来種 | 調査メッシュ数 | 在来種 | 外来種 | 調査メッシュ数 |
| 1985 | —   | —   | —       | 124 | 4   | 215     |
| 1986 | 124 | 3   | 182     | 131 | 4   | 230     |
| 1987 | 116 | 2   | 224     | 97  | 2   | 181     |
| 1988 | 121 | 5   | 206     | 125 | 3   | 150     |
| 1989 | 108 | 4   | 170     | 126 | 3   | 141     |
| 1990 | 119 | 6   | 219     | —   | —   | —       |

表4 夏鳥調査期間(5月10日~7月10日)に観察された国内繁殖を行なわない種

|   |   |                                 |
|---|---|---------------------------------|
| ガンカモ科<br>ヒドリガモ<br>アメリカヒドリ<br>オナガガモ<br>ミコアイサ                 | クサシギ<br>タカブシギ<br>キアシシギ<br>チュウシャクシギ<br>タシギ | モズ科<br>オオモズ<br>レンジャク科<br>ヒレンジャク |
| ワシタカ科<br>コチョウゲンボウ   | ヒレアシシギ科<br>アカエリヒレアシシギ                     | ヒタキ科<br>ツグミ亜科<br>ジョウビタキ<br>ツグミ  |
| チドリ科<br>ムナグロ  | トウゾクカモメ科<br>トウゾクカモメ                       | ホオジロ科<br>カシラダカ                  |
| シギ科<br>キョウジョシギ<br>トウネン<br>ウズラシギ<br>ハマシギ<br>サルハマシギ<br>アオアシシギ | カモメ科<br>ユリカモメ<br>アジサシ<br>セキレイ科<br>タヒバリ    | アトリ科<br>ベニヒワ                    |

表5 冬鳥調査期間(12月1日~1月31日)に観察された通常、国内では個体群として越冬しない種

|                 |                                   |                           |
|-----------------|-----------------------------------|---------------------------|
| サギ科<br>アマサギ     | ガンカモ科<br>アカハシハジロ<br>オオホシハジロ       | ヒバリ科<br>ハマヒバリ             |
| コウノトリ科<br>コウノトリ | アカハジロ                             | ヒタキ科<br>ツグミ亜科<br>クロジョウビタキ |
| トキ科<br>クロツラヘラサギ | シギ科<br>エリマキシギ<br>オオハシシギ<br>アオアシシギ | ムクドリ科<br>コムクドリ            |

## 夏鳥及び冬鳥調査における観察結果

夏鳥調査では調査期間の前期が渡り期間に入っている種もあるため、従来、国内繁殖を行なわないとされている種(高野 1982)も28種(表4)観察された。ほとんどは国外繁殖であるが、一部は北海道や千島列島など国内又はそのごく近くで新たに繁殖を始めた可能性もある。

冬鳥調査では従来国内では個体群として越冬しない種(高野 1982)が12種(表5)新たに観察された。

## 鳥種各論

本調査で観察された各種について以下に示す。夏鳥として観察されたガンカモ科(表

表6 夏鳥調査で観察されたガンカモ科

| 国内繁殖種   | 北方繁殖種   |
|---------|---------|
| コブハクチョウ | ヒドリガモ   |
| オシドリ    | アメリカヒドリ |
| マガモ     | オナガガモ   |
| カルガモ    | ミコアイサ   |
| コガモ     |         |
| シマアジ    |         |
| ハシビロガモ  |         |
| ホシハジロ   |         |
| キンクロハジロ |         |

表7 県内野鳥分布調査で観察されたワシタカ目

| 種名       | 夏鳥 | 冬鳥 |
|----------|----|----|
| ハチクマ     | ○  |    |
| トビ       | ○  | ○  |
| オジロワシ    |    | ○  |
| オオタカ     | ○  | ○  |
| ツミ       | ○  | ○  |
| ハイタカ     | ○  | ○  |
| ケアシノスリ   |    | ○  |
| ノスリ      | ○  | ○  |
| サンバ      | ○  |    |
| ハイイロチュウヒ |    | ○  |
| チュウヒ     |    | ○  |
| ハヤブサ     | ○  | ○  |
| コチョウゲンボウ | ○  | ○  |
| チョウゲンボウ  | ○  | ○  |

6)、ワシタカ目(表7)、シギ・チドリ類(表8)について示す。また国内には従来生息していない種の扱いは外来種、帰化種など様々の定義があるが、ここでは(小荷田1986)に依って外来種と定義された種について表9に示す。(表8、9は次ページ)

## おわりに

本報告は、県内における観察種について地域分けを行わず特徴的な点についてのみ述べた。現在、本調査のデータベース作成中であり、それが完了、解析後に詳細を報告する。

(執筆：小荷田行男)

## 文献

小荷田行男 1986 根釧原野における自然改変の歴史

表8 県内野鳥分布調査で  
観察されたシギ・チドリ類

| 種名         | 夏鳥 | 冬鳥 |
|------------|----|----|
| タマシギ       | ○  | ○  |
| ハジロコチドリ    |    | ○  |
| コチドリ       | ○  | ○  |
| イカルチドリ     | ○  | ○  |
| シロチドリ      | ○  | ○  |
| ムナグロ       | ○  | ○  |
| ケリ         |    | ○  |
| タゲリ        | ○  | ○  |
| キョウジョシギ    | ○  |    |
| トウネン       | ○  |    |
| オジロトウネン    |    |    |
| ウズラシギ      | ○  |    |
| ハマシギ       | ○  | ○  |
| サルハマシギ     | ○  |    |
| エリマキシギ     |    | ○  |
| オオハシシギ     |    | ○  |
| アオアシシギ     | ○  | ○  |
| クサシギ       | ○  | ○  |
| タカブシギ      | ○  | ○  |
| キアシシギ      | ○  |    |
| イソシギ       | ○  | ○  |
| チュウシャクシギ   | ○  |    |
| ヤマシギ       | ○  | ○  |
| タシギ        | ○  | ○  |
| オオジシギ      | ○  |    |
| セイタカシギ     | ○  |    |
| アカエリヒレアシシギ | ○  |    |
| ツバメチドリ     | ○  |    |

と野生動物の消長 ワイルドライフ・レポート No.4 69  
~81 野生生物情報センター 札幌

研究部 1985 埼玉の鳥相『しらこぼと』 No.19  
研究部 1986a 埼玉の鳥相『しらこぼと』 No.25  
研究部 1986b 鳥相で見る埼玉の都市化『しらこぼと』  
No.30

研究部 1987a シギ・チドリ類過去50年の越冬記録  
『しらこぼと』 No.37

研究部 1987b 埼玉平野部におけるコゲラの進出『し  
らこぼと』 No.42

研究部 1988a ヤマガラ、過去50年の生息記録『し  
らこぼと』 No.49

研究部 1988b コヨシキリ、ただいま勢力拡大中『し  
らこぼと』 No.55

研究部 1989a 埼玉におけるカワウの動態『しらこぼ  
と』 No.61

研究部 1989b 東進するイワツバメ『しらこぼと』No.66

研究部 1990 都市化に追われるシラコバト『しらこ  
ぼと』 No.73

日本工業規格 1976 地域メッシュコードC 6304

日本規格協会 東京

高野伸二 1982 フィールドガイド 日本の野鳥 日  
本野鳥の会 東京

表9 県内野鳥分布調査で観察された外来種

| 種名         | 夏鳥 | 冬鳥 |
|------------|----|----|
| ドバト        | ○  | ○  |
| セキセイインコ    | ○  | ○  |
| ワカケホンセイインコ | ○  | ○  |
| コウカンチョウ    | ○  |    |
| ベニスズメ      | ○  | ○  |
| ギンバラ       | ○  |    |
| ヘキチョウ      |    | ○  |
| キンランチョウ    | ○  | ○  |
| カオグロガビチョウ  |    | ○  |
| コリンウズラ     |    | ○  |

バードウォッチングウィーク展

## 自然探訪

自然保護や環境問題に対する関心が高まるなかで、守るべき自然をよりよく知ることが  
今まで以上に必要になってきています。ただの言葉だけに終らない自然そのものを、写真  
やワイルドライフ・アートを通じて、ともに探訪しようと呼びかけます。

期間 平成2年11月1日(木)~6日(火)  
午前10時~午後8時(6日は5時まで)

場所 熊谷駅ビル AZ熊谷  
第1会場 4階 カプセルプラザ  
第2会場 6階 AZサロン

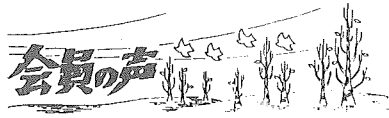
主催 日本野鳥の会埼玉県支部

後援 アイリスメガネ(株) AZ熊谷  
(株) ニコン

1990ネイチャーフォトコンテスト 入選作品展  
バードウォッチンググッズ 販売コーナー  
(第1会場)

日本野鳥の会 県外の仲間たち 愛鳥写真展  
ワイルドライフ・アート展  
(第2会場)

マンツウマン・バードウォッチング教室  
(両会場)



## ヤマセミかん太のひとり言

入野俊夫(所沢市)

ぽかぽかと暖かい日差しが照っている寒さがゆるんだ或る日、よく行く巾着田に鳥見に行った。

目的は当然大好きな山瀬マミ(ヤマセマミ)じゃなくて、間(マ)抜けのヤマセミ君に会うため。

いました! いました!! 巣穴に近い木の枝で羽づくろい。ゆっくりした時間、暖かな日差し、眺めながらいつしかうたた寝していた。「おい、間抜けのヤマセミだって! 冗談じゃない。オレはシマチュウさんの写真集にも出てるトップモデルなんだぞ。名前だって、かん太って、とーちゃん、かーちゃんが付けてくれたんがあるんだ。よーくおぼえとけ。

そう言えば、ツグミの勇二がカスミ網に掛かった時に、野鳥の会の人々が助けてくれて、カスミ網をなくすように約束してくれたって喜んでいただけ。涙もんじゃないか。

カスミ網は人間のつまんねー社会では交通事故、いや、かなりわざとだから、暴力バーみたいなものだ。

でもようー、オレンちの裏にも出来ようとしてるゴルフ場は、もっとひでーぜ。皆のマイホームが一気になくなっちゃう。人間だったら空襲とか原爆とか、最近だと原発事故と同じなんだ。おい、わかるかよ。お前だってやだろー。

いくらオレたちが文句を言っても、金に目のくらんだやつらは、『鳥がさえずっていいゴルフ場ですね』だって。パッカヤロー、オレたちは抗議してるんだ。

お前たちもオレたちをのぞいているだけじゃなくて、なんとかしてくれよー。」

ギクとして目がさめたら、かん太はいなかった。

日も陰りはじめてて、ちょっと寒気が。

いろいろ考えながら、とぼとぼ家路についた。

## 感激の巣立ち

小山則雄・啓子(大宮市)

昨年(2019年)の11月、わが家の庭にエサ台を作りました。そして、もくれんの木にシジュウカラの巣箱をつけました。

今年の3月になって、シジュウカラが巣箱のそばにやって来て、やがて、ちょっと入ってすぐ出てを繰り返していました。

4月から5月にかけて、抱卵、孵化、エサ運びなどを観察し続け、5月15日の午前9時半ごろ、ヒナがちらっと顔を出したので、いよいよ今日が巣立ちかなと思い、ドキドキしながら見ていたところ、12時35分、ついに1羽のヒナが出てきました。とってもかわいくて見とれていたら、つぎつぎに出てきて、なんと全部で10羽も。

もう感激でした!!

## ひとりさびしくタカの渡り調査

海老原美夫(浦和市)

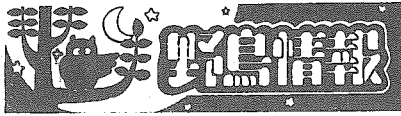
最初予定の9月30日(日)は台風、次の日曜日10月7日も悪天候。仕方なく10月10日の休日、飯能市天覧山にタカの渡り調査にでかけた。天覧山展望台は、親子連れなどでにぎわっていた。

空を見上げながら考えたことは、

- ① 今ごろ伊良湖岬ではずいぶん飛んでいるだろうな。チュッ、行きたかったな。
- ② タカの渡り調査なんかやめて、道満にナントカアジサシを見に行っただ方が良かったかな。
- ③ 「野鳥の調査ですか」なんて話しかけてくるのは、オジサン、オバサンばかりだな。ギャルは半径3m以内に近寄ろうともしない。ナゼダ。
- ④ 今晚は何を飲もうかな。
- ⑤ その他いろいろむなしなこと。

結果は、朝8時から正午までがんばって、気温20度前後、北よりの風で風力2~3、9時30以後は快晴という好条件にもかかわらず、サンバ2、オオタカ2、ツミ1、ハチクマ1だけ。

10月10日は、やはり埼玉県内ではタカの渡りは過ぎていることを確認できた、貴重な休日だったのだ。フン。



**オオミズナギドリ** ◇8月24日、午後1時30分、本庄市の阪東大橋下流で2羽。右に左に∞の型をとりながら、白と黒とを交互に反転させながらフライトしていた。もしかしたら?と思い台風通過に合わせて「年休」を取って大正解(町田好一郎)。

**ササゴイ** ◇8月11日、深谷市の上武大橋下流で1羽。この辺りでは見たことがないが台風の影響か(井上幹男)。◇8月18日、所沢市北秋津で鳴き声を聞く(佐藤方博)。

**アマサギ** ◇8月9日、戸田市道満貯水池でサギの群れ中に冬羽1羽(高橋達也)。

**チュウサギ** ◇8月27日、坂戸市西坂戸調整池で1羽。ダイサギに追いかけられながら小鮒をとっていた(増尾節子)。◇8月29日、幸手市の権現堂の桜堤付近の田圃で1羽(秋間利夫)。

**マガモ** ◇8月21日、本庄市の阪東大橋下流の流れ込みでエクリプス羽の♂1羽(井上幹男)。◇9月23日、坂戸市西坂戸の調整池で♂♀各1羽。今シーズン初認(増尾隆)。

**コガモ** ◇9月1日、浦和市白幡沼で1羽(小谷野勝栄)。◇9月15日、狭山市の入間川、広瀬橋上流で4羽。昨年と同日、同数の初認です(三田長久)。

**シマアジ** ◇8月26日、戸田市道満で1羽(藤原寛治・真理)。◇9月22日、同地で2羽(登坂久雄)。

**オオタカ** ◇8月29日、戸田市道満の釣堀横の枯木で若鳥1羽。オナガやカラスにモビングされて飛び去った(高橋達也)。◇9月6日、本庄市の阪東大橋下流のたまりの池で若鳥1羽。カルガモのヒナをねらって池の中へダイビングする。オオタカがんばれ、カルガモがんばれ!!ウーム、弱った。悩みながら写真は撮ったぞ…(町田好一郎)。◇9月9日、寄居町鉢形地区の野池で若鳥1羽。ヒヨドリをつかみながら、草むらから飛び立って立木にとまる(田口浩司)。

**サシバ** ◇9月8日、幸手市木立で3羽(秋

間利夫)。◇9月8日、北本市石戸宿で2羽(吉原俊雄・早苗、小川寛次)。

**チョウゲンボウ** ◇8月14日、戸田市道満で4羽(藤野富代)。

**キジ** ◇9月14日午前7時30分、東武東上線若葉～鶴ヶ島間上り左側線路際の草地で♂♀合わせて6羽。輪になって朝の会議?通勤電車内からウオッチング(増尾隆)。

**タマシギ** ◇9月8日、幸手市木立付近の中川で1羽。9日には2羽(秋間利夫)。

**コチドリ** ◇9月17日、幸手市木立付近の中川で65羽以上(秋間利夫)。

**メダイチドリ** ◇9月7日、幸手市木立付近の中川で1羽(秋間利夫)。◇9月15日、戸田市道満貯水池の干潟で1羽。19日には、同地で2羽(高橋達也)。

**ムナグロ** ◇8月14日、本庄市の阪東大橋下流で12羽が下流へ飛んで行く。中州にはまだ9羽が残っていた(井上幹男)。◇9月1日、狭山市の入間川、広瀬橋上流で夏冬中間羽22羽。うずくまっていた1羽の尾がかすかに上下しており、呼吸に伴うものであるうと思ひ、数えてみたら32回/分程度であった(三田長久)。◇9月7日、幸手市木立付近の中川で13羽(秋間利夫)。

**ダイゼン** ◇9月17日、戸田市の戸田橋付近の荒川の川岸で3羽。19日にも3羽。26日に1羽を観察した(高橋達也)。

**キョウジョシギ** ◇8月4日、戸田市道満貯水池で3羽(高橋達也)。◇8月11日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(井上幹男)。

**トウネン** ◇8月25日、本庄市の阪東大橋下流で7羽。うち夏羽1羽(井上幹男)。◇9月8日、幸手市木立付近の中川で3羽(秋間利夫)。

**キリアイ?** ◇8月26日、戸田市道満貯水池の干潟で幼鳥羽1羽。去年秋にも同地に観察例があります。今回も誰かカメラを持っている人がいればよかったです(高橋達也)。

**コアオアシシギ** ◇9月17日、戸田市道満貯水池の干潟で4羽(高橋達也)。

**アオアシシギ** ◇8月18日、本庄市の阪東大橋下流の中州で11羽(井上幹男)。◇9月

1日、幸手市天神島の水をはった田で3羽。草がでないように水を入れたそうです。除草剤もまいたということで毒もいっしょに食べていると思うと心配です(秋間利夫)。

クサシギ ◇8月4日、本庄市の阪東大橋下流で1羽。◇9月22日、朝霞市の黒目川、花木橋上流で2羽。護岸コンクリート上に飛来。黒い翼と白い腰が印象的(山上善郎)。

キアシシギ ◇8月31日、幸手市天神島の水をはった田で1羽(秋間利夫)。

タカブシギ ◇8月31日、幸手市天神島の水をはった田で10羽(秋間利夫)。

ソリハシシギ ◇8月26日、戸田市道満貯水池の干潟で2羽(高橋達也)。◇9月1日、幸手市天神島の水をはった田で1羽(秋間利夫)。

オグロシギ ◇9月15日、戸田市道満貯水池の干潟で5羽(高橋達也)。

オオソリハシシギ ◇9月19日、戸田市道満貯水池の干潟で1羽(高橋達也)。

セイタカシギ ◇8月29日、戸田市道満貯水池の干潟で1羽(高橋達也)。

アカエリヒレアシシギ ◇8月31日、幸手市天神島の水をはった田で1羽。9月1日にも同地で見られた(秋間利夫)。◇9月17日、戸田市の戸田橋付近の荒川で幼鳥1羽。左の翼をけがしているようで飛べないようだった(高橋達也)。

ウミネコ ◇8月16日、浦和市秋ヶ瀬の荒川で20羽(小谷野勝栄)。◇9月14日、戸田市道満で十数羽(草間和子、角田真喜子)。

ユリカモメ ◇8月25日、本庄市の阪東大橋下流で1羽。上流へ飛んで行く(井上幹男)。

ツツドリ ◇8月29日、幸手市権現堂の桜堤で1羽(秋間利夫)。

アオバズク ◇8月19日、川口市差間で1羽。

電線にとまっていた(渡辺 敦、何森 要、神場真文)。

ヨタカ ◇8月19日午前8時頃、鴻巣市大間1丁目で1羽。右手より超低空で道を横切り、腹を見せ上昇。人家の屋敷林にはいる。渡りの途中の個体か(榎本秀和)。

シラコバト ◇9月9日、浦和市秋ヶ瀬の排水機場で2羽(小林洋一・みどり)。

ヒメアマツバメ ◇8月18日午前10時、狭山市の入間川、広瀬橋上流で2羽。暑さを吹き飛ばすような軽快な飛翔でした(三田長久)。

アオゲラ ◇9月12日、鶴ヶ島町高倉で1羽(中村 治)。

ショウドウツバメ ◇8月18日、本庄市の阪東大橋下流で5羽(井上幹男)。9月14日同地で約3千羽。何処から来たのか小雨降る中、水面が見えない位の数が水面すれすれに飛ぶ。ものすごい数に圧倒された(町田好一郎)。◇9月22日、朝霞市の黒目川、花木橋上流で50羽前後(山上善郎)。

エゾムシクイ ◇8月29日、戸田市戸田公園の公園事務所前の植木で2羽。数回さえずる(高橋達也)。

エナガ ◇8月18日、吉田町の破風山で1羽(石井 智)。

ヒガラ ◇8月10日、鴻巣市大間1丁目で2羽。台風11号による風雨激しく、隣家の庭木に避難してきた様子。マイフィールドで夏期にヒガラを観察したのは初めて(榎本秀和)。

ヤマガラ ◇8月18日、吉田町の破風山で1羽(石井 智)。

イカル ◇8月18日、吉田町の破風山で1羽(石井 智)。

コムクドリ ◇8月14日、深谷市の上武大橋下流で4羽(井上幹男)。

表紙の写真

1990ネイチャーフォトコンテスト入選作

ハイイロチュウヒ (ワシタカ科)

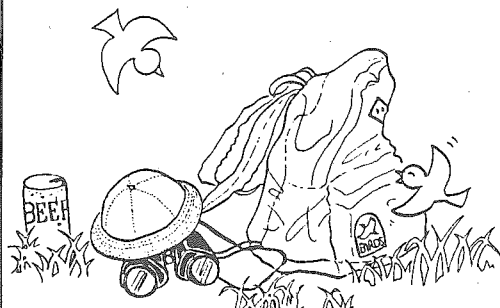
ハイイロチュウヒが越冬する枯野には、何種類かのタカが必ずいる。

近縁のチュウヒ、ホバリングという得意技を持つノスリ、弾丸のように小鳥を襲うコチョウゲンボウなどが冬を越す。

野鳥全般を対象に写真撮影を始めたが、いつの間にかワシタカを求めてでかけることが多くなってしまった。

1989年12月30日 渡良瀬遊水池 1000mm F 8  
1 / 500 F 11 PKL (市川計彦・川越市)

# 行事あんない



\*\*\*\*\*  
11月1日～7日はバードウォッチング  
ウィーク。この期間中、当支部では4か  
所で探鳥会を開催します。この機会に、  
お友達やご家族を誘ってみてはいかがで  
しょう。(11月3日の探鳥会の詳細は、  
先月号をご覧ください)  
\*\*\*\*\*

## 上尾市・丸山公園探鳥会

期日：11月3日(土・祝)  
集合：午前7時20分 丸山公園北口駐車場  
交通：上尾駅西口から上尾車庫ゆきバス

## 富士見市・柳瀬川探鳥会

期日：11月3日(土・祝)  
集合：午前9時 東武東上線柳瀬川駅前

## 浦和市・秋ヶ瀬探鳥会

期日：11月4日(日)  
集合：午前9時 浦和駅西口バスロータリー  
(その後、現地までバス利用)  
担当：海老原美夫、福井恒人、登坂久雄、伊藤芳晴、手塚正義、小林みどり  
見どころ：冬鳥を迎えに、森へ行こう。カシラダカやシメ、ツグミが、ひさびさに元気な姿を見せてくれるでしょう。

## 吉見町・吉見百穴周辺探鳥会

期日：11月4日(日)  
集合：午前9時30分、東武バス停百穴入口前  
交通：東武東上線東松山駅東口8:58 発または高崎線鴻巣駅東口8:50 発のバス。

野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。  
探鳥会への参加は、特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。受付は探鳥会当日です。参加費は一般100円、会員及び中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。小雨決行です。解散時刻は、特に記載のない場合、午後1時ごろになります。

- ◇フィールドマナー、いつも忘れないで◇
- ・鳥に近づきすぎたり、植物を採ったり荒らしたりしないように。細く長いおつきあいを。
  - ・ゴミは、家まで持ち帰りましょう。

担当：榎本秀和、岡安征也、石井幸男、逸見峻、内藤義雄、吉原俊雄  
見どころ：静かな沼に浮かぶカモの群れ。マガモ、ヒドリガモなど数種類が、秋の木もれ陽のなかで、のんびりお昼寝。

## 栃木県・奥日光探鳥会

期日：11月10日(土)  
集合：午前6時50分 大宮駅東武線改札口前  
または午前7時35分 春日部駅日光方面行きホーム最前部。  
現地までの交通：東武日光線快速(浅草7:10、春日部7:42)および東武バス。  
切符は「日光フリーパス」がお得です。  
帰路：春日部に午後7時半ごろ帰着の予定。  
担当：中島康夫、松井昭吾、楠見邦博  
見どころ：この季節、幸運の鳥は赤い鳥ノベニマシコやイスカなど、幸せ探して冬枯れの戦場ヶ原を歩きましょう。  
注意：暖かな服装としっかりした靴でどうぞ。

## 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：11月11日(日)  
集合：午前9時20分 秩父鉄道大麻生駅前  
交通：秩父鉄道熊谷9:00 発または秩父鉄道寄居8:52 発に乗車  
担当：諏訪隆久、林滋、町田好一郎、関口善孝、諏訪夕香子、田口浩司、宮坂亨  
見どころ：秋の川辺の散策。色づいた林、高い空——秋景色の大麻生に、山から、北から、冬の常連たちが集まって来る。



### 狭山市・入間川探鳥会

期日：11月11日（日）

集合：午前9時10分、西武新宿線狭山市駅西口

交通：西武新宿線本川越駅8:56発に乗車

解散：稲荷山公園にて正午ごろ

担当：福井恒人、三田長久

見どころ：川面にきらめくハマシギの飛翔、干潟で見るのとは違った味わい。越冬ヒメアマツバメにも会いたいね。

### 浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：11月18日（日）

集合：午前8時15分 北浦和駅東口 または午前9時 浦和市立郷土博物館前（北浦和駅の場合、その後バス利用）

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見邦博、福井恒人、渡辺周司、手塚正義、伊藤芳晴、笠原伸子

見どころ：水鳥から山の小鳥まで、いろいろ見られる楽しいコース。これからの季節は、鳥の種類も増え、楽しさも倍増。

### 長瀬町・長瀬探鳥会

期日：11月23日（金・祝）

集合：午前10時 秩父鉄道長瀬駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:20発または東武東上線川越8:53発に乗車

担当：林滋、町田好一郎、田口浩司、宮坂亨、諏訪隆久

見どころ：紅葉見物、鳥見物。川面を走るブルー、カワセミ。川面を走るカノコ、ヤマセミ。そしてまわりは紅葉・黄葉。

### 桶川市・川田谷探鳥会

期日：11月23日（金・祝）

集合：午前8時45分、桶川駅西口（その後8:53発のバスで現地へ）

担当：榎本秀和、岡安征也、乗田実、立岩恒久

見どころ：刈田には鳥がいっぱい。タゲリにタヒバリ、セキレイ類。よく探せばタシギも。なかなか賑やか、田んぼの秋。

### 坂戸市・高麗川探鳥会

期日：11月25日（日）

集合：午前9時 東武越生線川角駅前

交通：東武東上線川越8:33発特急→坂戸で越生線乗換え8:49発→川角8:58着

解散：午後2時ごろ

担当：長谷部謙二、伊藤芳晴、石井幸男、中村治

見どころ：冬鳥の地鳴きのお勉強。勉強の後の楽しみは、名物カワセミ、ヤマセミ。

### 『しらこぼと』袋づめの会

とき：12月1日（土） 午後1時～3時ごろ

会場：支部事務局（詳しい地図は先月号参照）

案内：若い人の参加が増えている“袋づめ”ですが、年齢も、精神年齢も不問です。

### 野鳥写真クラブ定例会

とき：12月1日（土） 午後3時ごろ～5時

会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ

案内：写真クラブで腕みがき、来年はネイチャーフォト・コンテストに挑戦！

### 本庄市・阪東大橋探鳥会

期日：12月2日（日）

集合：午前9時 本庄駅北口（その後現地までバス利用）

担当：町田好一郎、林滋、小淵健二、諏訪隆久

見どころ：阪東太郎のワイルドな魅力。猛禽の急襲。舞い上がるカモの大群、その羽音、水音。野生のドラマに心が熱い。

### 北本市・石戸宿探鳥会

期日：12月2日（日）

集合：午前9時20分 北里病院玄関前

交通：北本駅西口アイメガネ前8:50発北里メディカルセンター行きバス利用

担当：岡安征也、榎本秀和、吉原俊雄、立岩恒久、内藤義雄、関口善孝

見どころ：初冬の林の小鳥たち。昔の面影をとどめる林に、カラ類やキツツキの仲間をたずねます。冬鳥も揃っています。

# 行事報告

8月19日(日) 浦和市 三室地区

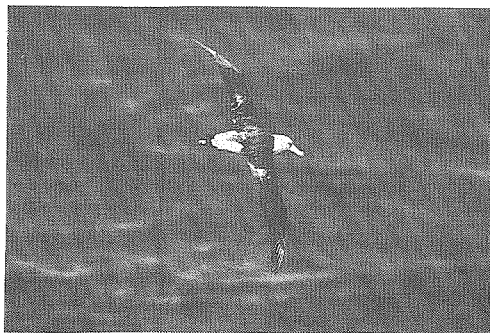
人 36人 天気 晴 鳥 カイツブリ コサギ カルガモ サシバ バン コチドリ イソシギ キジバト カワセミ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ コムクドリ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (24種) バン、カイツブリ、カルガモが芝川のアシの葉陰に居るのが一つの視野に入った。また、サシバが2羽出現し、皆で10月の伊良湖ツアーに思いをはせた。

9月1日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

がんばってくれた人 岩波勇一、海老原教子、海老原美夫、河辺達朗、神場真文、小荷田行男、篠原東彦、内藤義雄、中村治、藤野富代、吉田二三子、渡辺喜八郎 (12人)

9月1日(土) 写真クラブ定例会

集まった人 18人 作品発表した人 4人



コアホウドリ (青沼俊雄・越谷市)

9月8日(土) 川崎市 多摩川河口

人 16人 天気 晴 鳥 カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ オナガガモ ホシハジロ キンクロハジロ

トビ バン シロチドリ メダイチドリ ムナグロ ダイゼン キョウジョシギ トウネン ハマシギ オバシギ コオバシギ アオアシシギ キアシシギ ソリハシシギ オグロシギ オオソリハシシギ ユリカモメ セグロカモメ ウミネコ キジバト ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ シジュウカラ スズメ ムクドリ ハシボソガラス (36種) 潮の具合も良好。広がった干潟で十数種のシギ・チドリ類が見られた。やはりシギ類の識別はむずかしい。オグロシギとオオソリハシシギ、オバシギとコオバシギ等々。みんな頭を悩ませていた。解散間際にコオバシギ数羽を交えたオバシギ20羽ほどの群れが現われ、この2種の識別にはみんな自信を持ったようだ。

9月9日(日) 熊谷市 大麻生

人 51人 天気 晴 鳥 カイツブリ ゴイサギ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ コガモ ミサゴ コジュケイ クサシギ キアシシギ イソシギ キジバト ツツドリ ヒバリ ツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ セッカ サメビタキSP シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) まだまだ残暑厳しい大麻生。でも鳥の世界では一步一步秋が深まって行く。渡りの途中のキアシシギ、いつの間にか少なくなったツバメ。なんとと言っても、この日の見どころは、渡りの準備を始めるツツドリ、大きく広がった川でダイビングを見せてくれたミサゴ。今年も秋冬シーズンはおもしろそうだ。

9月16日(日) 浦和市 三室地区

人 21人 天気 曇一時雨 鳥 コサギ マガモ カルガモ コガモ サシバ コジュケイ

イ キジ バン クサシギ イソシギ タシギ  
 ギ ジシギSP キジバト コゲラ ツバメ  
 キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ  
 ヒヨドリ モズ エゾビタキ シジュウカラ  
 ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ  
 オナガ ハシブトガラス ハシボソガラス  
 (29種) やはり出ましたエゾビタキ、予告ど  
 おりに斜面林の梢に。コガモも芝川に戻っ  
 てきた。空には、渡りのサシバが飛び、モズが  
 なわばりを声高らかに宣言して、三室の里に  
 鳥のシーズンがやってきた。

9月23日(日) 寄居町 鐘撞堂山

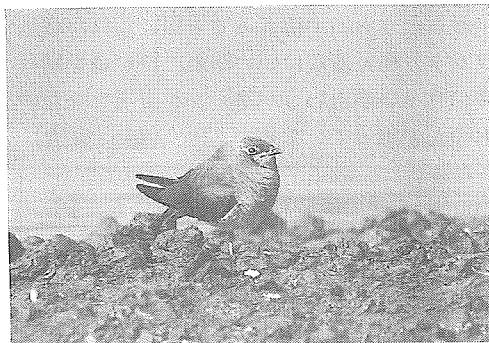
人 51人 天気 晴 鳥 カルガモ オオタ  
 カ コジュケイ キジバト コゲラ ツバメ  
 キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ  
 ヒヨドリ モズ エゾビタキ ヤマガラ シ  
 ジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ  
 スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス  
 ハシブトガラス (23種) 前日の下見ではサシ  
 バが1羽も飛ばず、探鳥会でも1羽も出な  
 かったが、鳥合わせの後でやっと飛んでくれた。  
 コサメビタキも鳥合わせの後に姿を見せてく  
 れて、リーダーもホッと一安心。

9月29日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

がんばってくれた人 青沼俊雄、岩波勇一、  
 海老原教子、海老原美夫、神場真文、黒江光  
 子、黒江雄三、小林礼子、登坂久雄、馬場昇、  
 藤野富代、渡辺孝章 (12人)

9月29日(土) 写真クラブ定例会

集まった人 16人 作品発表した人 4人



ツバメチドリ (登坂久雄・八王子市)

9月30日(日) 本庄市 阪東大橋  
 大雨と強風で中止。

10月7日(日) 北川辺町 渡良瀬遊水池

人 32人 天気 曇 鳥 コサギ ダイサギ  
 アオサギ カルガモ コガモ ミサゴ チュ  
 ウヒ トビ アオアシシギ シラコバト キ  
 ジバト ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ  
 キセキレイ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ  
 ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ  
 オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス  
 (25種) 今回の探鳥会の目玉であるミサゴが  
 初めから登場。遠かったが、枯れ木に止まる  
 3羽を見つけた。その中の1羽が飛び、近く  
 に来てくれた。渡りの途中のショウドウツバ  
 メの群れも見られた。

1990年ネイチャーフォトコンテスト

入選作品発表

応募点数67点(野鳥部門57点、その他の部  
 門10点)の中から、9月16日の役員会で厳重  
 審査の結果、次の30点が入選と決まりました。  
 (野鳥部門) コミズク・ハイイロチュウヒ  
 (市川計彦)、セッカ・キジバト・シラコバ  
 ト・カワセミ・コサギ・ハシビロガモ・コム  
 クドリ(海老原美夫)、フクロウ(金井祐二)、  
 アオバズク・オオコノハズク・キジ・セッカ  
 (鈴木秀男)、アオアシシギ・トラフズク・  
 ジョウビタキ・シジュウカラ・アオジ・クロ  
 ジ・シロハラ・メジロ(登坂久雄)、セッカ  
 (野川一臣)、ダイサギ・コサギ(町田好一  
 郎)

(その他の部門)

ニホンリス

(榎本秀和)

朝焼けの学校橋

(鈴木秀男)

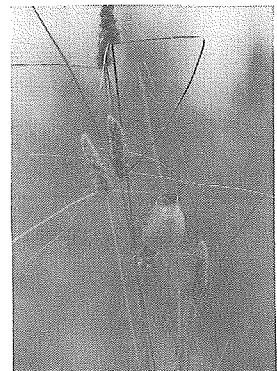
オカトラノオ

(増尾隆)

イチモンジセセリ

・ムラサキシジミ

(渡辺敦)



セッカ(野川一臣・大宮市)



### 野鳥保護シンポジウム

日本野鳥の会は財団法人化20周年を記念して、「21世紀の人と野鳥と自然……共存のあり方を探る」をテーマに、野鳥保護シンポジウムを開催します。どなたでも参加できます。野鳥保護について考えるよい機会です。どうぞご参加ください。

〔第1日〕 分科会

11月17日(土) 9:20~16:40

国立オリンピック記念青少年総合センター研修館(渋谷区代々木神園町3-1)

第1会場・第2会場にわかれて、自然保護の論理と課題、自然保護活動とライフスタイルなどについて討議する。

〔第2日〕 全体会

11月18日(日) 10:00~16:30

津田ホール(渋谷区千駄ヶ谷1-18-24)

パネルディスカッション、野鳥保護実践報告など。

〔参加申込み〕 電話で受付。会場別・先着申込み順。定員になり次第締め切り。受付開始:11月1日午前10時から。定員:分科会両会場とも各50名、全体会450名。申込み先:03-406-7179保護部。

### 今年も甲府支部にレンジャク情報を

レンジャク調査隊を設けて全国からレンジャク情報を集め、生態解明、保護を目指している甲府支部から、今年も情報依頼がありました。

情報項目:ヒカキか混群か/観察地/標高/市街地・郊外などの区分/観察年月日時刻または期間/天候/羽数または期間中の羽数の変化/報告者の住所・氏名・電話番号・所属支部/その他気づいたこと など。

送り先:〒

日本野鳥の会甲府支部 甲府レンジャク調査隊 電話

### 11月の土曜日当番(2時~6時)

- 11月3日 小淵健二 内藤義雄
- 11月10日 草間和子 渡辺孝章
- 11月17日 山部直喜 海老原美夫(編集会議)
- 11月24日 杉本秀樹 伊藤芳晴
- 12月1日 袋づめの会(1時から)

### 会員数は

10月1日現在 1,451人です。

### 活動報告

- 9月7日 21日 10月1日 事業部事務処理など(草間)。
- 9月9日 役員会議(熊谷市にて、司会:長谷部謙二、コピー機械の購入について・パネル展企画について・その他)。
- 9月16日 役員会議(支部事務局、司会:笠原伸子、ネイチャーフォトコンテスト応募作品審査)。
- 10月6日 普及部会議。
- 10月11日 アイリスメガネ本社で、12日はアズ熊谷で、パネル展打合せ(海老原)。



私の好きな鬼平犯科帳が10月から再開されました。原作のファンだった私には、登場する人物がなつかしく、鬼平のイメージと主役の中村吉右衛門が実によくあっていて、安心して見ていられ、何となくホッとするという不思議な時間になっています。

最近どうも出不精ぎみですが、これからはワシタカを見るにはいい季節。いい鳥を見た後のうまい酒というパターンを復活させたいものだと思っています。(藤原寛治)

『しらこぼと』1990年11月号(第78号) 定価 100円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 鈴木忠雄 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL・FAX 048(832)4062

〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替東京9-121130

印刷 望月印刷株式会社

(本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)